

# 「潰瘍性大腸炎手記」 桑原 猛 37 歳

2010 年 12 月 15 日

## 闘 病

### 自己免疫疾患・潰瘍性大腸炎を患って

十年以上前のある日、当然、お腹が痛くなってトイレに駆け込み、用を足した後、何気なくふと便器を覗き込むと真っ赤な鮮血が便器中に溢れていました。最初は、何がなんだか実感が湧かず、あれ「大きなう〇ち」をしたので切れ痔にでもなったのかな？とぐらいにしか思いませんでした。でも、あとになって気が付いたのですが、その時には潰瘍性大腸炎特有の粘血便と下痢を発病していたのです・・・。

それから、数ヶ月間にも及ぶ入院生活を三回、四回と繰り返し、2ヶ月以上の完全絶食を味わうような長い、長い、病気との七転八倒の戦いの日々が始まったのです。

そして今、ほぼ治ったと言っても良いぐらい日常生活を送れています。

今はまだ、経営者と言うどうしても過度にストレスが掛かる業務を遂行しているために、たまに発病してしまいます。しかし、この先治るだろうと実感しています。たまに、めまいや耳鳴りにも見舞われますが、ヘルペスが原因だと何処の医者にも言われたことがない診断に？？？と思いながらも処方通りに従うとグッと楽になります。見つかった！！これで俺の病気も治る！！とそう思えた瞬間があったのは事実です。

二年前の正月休み（2008年）に松本医院をインターネットで見つけた時です。ネット上に公開されている松本先生の論文を読んで、初診での所見を

「ずばり治してあげるから！！」と力強く仰って頂き目の前が明るくなったのが昨日のように思い出されます。間違いなく言えるのは、長い、

長い闘病生活にほとんど疲れ果てて、全国各地の名医と呼ばれる医院と言う医院を訪ね歩いた結果、一向に治らず諦めかけていた矢先、何気なしにインターネットで検索していた時、この先生が言っていることは本当だろうか？と懐疑的には思ってしまうほど、鮮明に過激に、理論だって、書かれている論文を実名、現住所で公開されて戦っている本当の医者に出会えたことです。

正月休みが明けるとすぐに新年の挨拶回りもそこそこに名古屋の地から大阪の

高槻まで飛ぶように訪ねて行きました。

そこには、今までには出会ったことのない衝撃的な医師がひっきりなしに鳴る電話で全国からの往診をしながら、医院の待合室に並び行列を作る患者たちを診察する姿でした。

今あなたが読まれているであろう、数々の闘病患者さんたちの手記を、診察を待っている間中ずっと食い入るように読んでいました。

だからこそ私のこの闘病日誌を発病した暗い日から書くのではなく、今まさに治る寸前の状態で書いて、諦めかけていた自分を思い出し、あなたにもほんのちょっとした努力で治ることを勇気付けたいと心から思っています。

「漢方薬で治る。」は本当なのだろうか？

私が一番最初に感じた疑問です。あなたもきっと感じていると思います。

実際に私は他院でも漢方を処方してもらい長く飲んでいて経緯があり、治ったのか治らないのかははっきりしない日々を3年近くも過ごしました。

そして引っ越しを機にその医院には遠方の為に通院しなくなったと記憶しています。じゃなぜ？松本医院で処方される漢方は良く効いたのだろうか？

私が感じた第2の疑問です。あくまで私は自身が感じたことを書いているに過ぎませんので、皆様は具体的なことは松本先生に直接お訊ね下さい。

どこの医院や薬膳薬局よりも効いたその効果は、まず、煎じることが面倒で今までやっていなかったことと、ついつい飲みそびれたり、忘れちゃったりしていたのを費用が掛かるので単純に勿体ないからと、ちゃんと毎日摂取したことが大きかったとも思います。

いくら効く漢方でもちゃんと決められた通り飲まないと得られる効果は半減してしまうと思います。実際、つい忙しくて飲むのを忘れていたり、じわりじわりと症状が出てしまう時があります。ちゃんと飲めばすぐに収まりますけど。

漢方と同時に私が今試していることがあります。食事療法と言えば何か仰々しいものを想像してしまうと思うのですが、単純に一番好きだったコンビニの snacks 菓子やコーラ、缶コーヒー、乳性品なども2010/11/23以来あまり食べていません。これは今の所、良好なようです。

あとは結構、好きなモノを食べています。

今の自分を造っているのは、全て「今日までに口に入れた食べ物」と「自分自身の考え方」だと、どこかの本で読みました。

まさしくその通りだと思っています。

誰も病気になりたくて病気をしているわけではありませんよね。

でも良く考えて見たら、暴飲暴食だったり、偏食だったり、過度の労働だったり、と体のことを考えず生きてきたなあと自分自身を振り返っています。

なので、今は漢方のお陰で症状が良くなっているので、落ち着いて前向きに考

えるコトが出来るので、やはり『口から入れる食べ物』は大切だなと実感しています。でも勘違いしないで下さいね。松本先生からは何を食べても良い！とOKを貰い実際に食事に関しては無精なくらい気を遣わずに好きのモノを食べながら漢方を飲むことで体調が改善しました。

お酒が好きでたまに羽目を外してしまい体調もスゴロクのように三步進んで二歩下がるような時もあります。けど、全然、大丈夫だと言えるほど回復しています。そんなある日、まさしくこの手記を書いている最中にめまいや吐き気などに見舞われました。以前からたまにあったのですが、一日ゆっくりしていれば治っていたので何も薬も飲まず、対策らしい対策はしていませんでした。

でも、今回は、とても仕事出来るような状況でもなくなり、立ってられないほど、めまい、そして吐き気、頭痛が襲ってきました。

それが日中、ずっと続くので仕事どころではありません。潰瘍性大腸炎が治って、さあこれから！！また忙しく働くぞ！と思っていた矢先です。

早速、松本先生に電話して、症状と薬を処方してもらい、ヘルペスが原因だと知りました。私が無知故にヘルペスは体にブツブツ出来る病気だと思っていました。でも、そのヘルペス菌が体の中に入っている以上は、色々な症状が出るようなのです。でも、処方された薬を飲んだら、一気にとはいかないまでも、症状は改善されて治りました。会社経営や人間関係による、過度のストレスが原因だったようです。考え方を戒心するような禅僧のようなことを問い掛けるつもりはありません。でも、ちょっとした考え方の違いで過度に受け止まうストレスを避けることも出来るようになってきました。これは潰瘍性大腸炎が治癒してきたから言える余裕がもたらしてくれていると実感しています。

何にせよ、潰瘍性大腸炎は治る病気だと今は思います。

10年前、医者から「この病気は一生治らない」などと無責任な診断をされて悲嘆に暮れていた日々が嘘のようです。途中、死んでしまいたいと思ったことは数知れず、家族のお陰で今の私があります。本当に周りの皆さんのおかげです。最後に、松本先生はちょっと変っているようにお見受けします。(笑)

しかし、仰ることや診断、処方などお医者さんに求めるものは、今までお会いしてきたどんな方がよりもベストで、私には、最高に思えます。

松本先生がいるから多くの命や患者さんの未来が助かっています。本当にありがとうございます。これからもお体にお気を付けて悩める患者さんをお救い下さいませ。この手記がその一助になれば幸いです。